

ことぶき共同診療所だより

第 19 号

2005 年 5 月 27 日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 2F

電話とファックス 045-651-2305

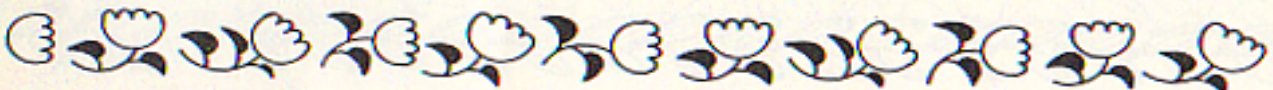
E-Mail info@kyoudouclinic.com

URL http://www.kyoudouclinic.com/

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

とうとう 10 年目 —せいっぱいの診療活動が続いています—	田中 俊夫
最近のデイケア	
デイケアだよりの紹介	橋本 等
温泉旅行の感想	デイケア・メンバーより
森林公園の花見	鳥潟 恭子
潮干狩り	大平 正巳
公園は今花ざかり	田中 藤枝
ボランティアさん紹介—山口のぶえさん—	
寿町関係資料室から	松本 一郎
関係機関の方から	西舘 直樹(「ろばの家」職員)
“診療室から”(15)—最近思うこと—	森 英夫
最近のことぶき共同診療所の利用のされ方について	田中 俊夫
職員自己紹介	石井 ひとみ 日野浦 リサ
ことぶき共同診療所ホームページの紹介	
共同診療所・鍼灸院ガイド	



とうとう10年目

—せいいっぱいの診療活動が続いています—

当診療所は、4月1日より、開設10年目に入りました。私としては、陳腐ですが、まことに感無量なものがあります。56才の秋、脳梗塞を起こして栄共済病院に入院していた時に開業を決意し、半年後に実現したのでした。最初の2年間は、今だから笑ってふり返れるのですが、様々な困難が次々とおとずれ、よく頑張りきれたなあと思う程でした。3年目あたりから軌道に乗り出し、最近では、患者さんの激増に、どう対処したらよいのかと困惑している状態です。

前号であらかじめお知らせした通り、平成16年12月1日をもって、当診療所は医療法人となりました。よくある「何々会」という名称はあえて付けず、ただ「医療法人ことぶき共同診療所」としました。必要上理事会というものがあり、一応私が理事長ということになっていますが、もう停年をすぎているので、早く良い人と交代したいと考えています。

昨年秋以降のことと云えば、関連機関の職員の方々にも来て頂いての

恒例の忘年会、デイケアの患者さん達と紅白を見ながらおそばを食べた大晦日、寿医療班との共催の新年会、デイケアの行事としての温泉旅行、凧上げ、お花見、潮干刈りと例年通り賑やかにやってきています。もうすぐもみ播き、田植えです。去年から今年にかけて、これ迄になく多くの方々が、見学に、ボランティアに、実習にと当所を訪れて下さり、人材山脈が又一つ大きくなった気がします。診療所のホームページをみて連絡をとって下さった人もいました。中でも長野県松本から、医学部志望の高校3年生8人を中心として10人余の人達が泊りがけで来てくれたのには、びっくりもしましたが、大変嬉しいことでした。

以上のことの他にも、心理テストをしてくれる臨床心理士の人に来てもらえることになったり、東京と大阪への職員の出張研修が決まったり、少しずつの前進が続いています。10年目の今年もしっかりやろうと考えています。

(田中 俊夫)

最近のデイケア

● デイケアたよりの紹介

デイケアの利用者のみんなが中心になって作ったたよりです。

みんなで何度もミーティングを開き、内容や形態を話し合い、一人ひとりがどんな形で参加するのかを考えたりしました。

そして、自分の歴史や思い出話、川柳や詩。デイのプログラムの造形作品、書道の作品。レイアウトや製本を手伝うなど様々な形で参加をしました。

出来た作品を友人や担当ケースワーカーさんに配った方もいらっしゃいました。

これからも年に2回くらいのペースで楽しみながら無理せずに行けたらと、思っています。

先日のミーティングで利用者さんからスタッフやボランティアさん、見学をしていただいた方たちも参加してくれると楽しいなという声が出ました。

よろしかったらこれを読んでくださった方々の参加を楽しみにしています。

(橋本 等)

ことぶき共同診療所 デイケアたより

創刊第1号

平成16年12月15日発行

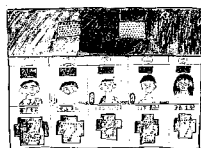
デイケアのみんなで作ったたよりの創刊号です。これからも続けて発行して行きます。どうぞよろしくお楽しみに。

散
銀
る
杏

竹葉 詠



竹葉



下田明

勸若金風危
満酌不須辞
花巻多風雨
人生足別離

香花

菅原政男

お柳内即ち寿親通松寸岳
念我其 望 高星葉志烈
花柳依同御時長祖連社守所
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀
念銀乳 祀

大庭義男



丸下東浩隆



野明 詩行

● 温泉旅行の感想

デイケア・メンバーより

出発時には雨がふっていてどうなることかと思いましたが、観光で立ち寄った曾我梅林ではちょうど雨も止んで、のんびり観光することが出来ました。その後、沿道の定食屋で牡蠣フライを食べ、一行は丹沢薬草園を訪問し色々な薬草をみたり、古い大工道具の展示やアマゾンの魚を観ることが出来とても良かったです。あわせて丹沢湖も観光しました。雨の中でしたがなんとではなく情緒もありとてもよい場所でした。

観光後は、旅館に入りました。温泉にのんびり浸かり、食事も美味しなかつ

た(特に刺身)です。私は参加しませんでしたでしたが、一緒に行った人の中にはカラオケやボーリング(私は雨のため参加しませんでした)に出かけたりして楽しんでいました。夜は、同室者のいびきを子守唄(???)によく眠ることができました。

翌日は、旅館を出発後、早川の海鮮食堂で食事をし、参加者一同新鮮な魚料理を堪能しました。その後、海岸沿いを3時間コースでドライブ、江ノ島を横目に観て大船から帰路につきましたが、運転担当の人は雨のなか運転が大変そうでした。

とにかく久しぶりの旅行ということもあり楽しい2日間を過ごすことが出来ました。参加されたみなさん、お疲れさまでした。添乗員役のスタッフのみなさんもお疲れさまでした。どうもありがとうございました。今後もまた楽しい旅行が出来たらと思っています。

- 森林公園の花見(4月7日)

デイケア恒例の花見の季節がやってきました。

デイメンバーの顔ぶれも多少変わり、今回初めて森林公園へ花見に行くという方もちらほら。朝はどんよりと曇り。花見日和なのか延期すべきか判断しかねましたが、運を天に任せて決行。

公園では桜の木の下にブルーシートを敷き花見の開始です。お弁当に舌鼓を打ちつつしばしのんびりとした時を過しました。しかし、食後ともなれば、おやつをつまんだり、ジュースを飲んだり、談笑、昼寝、散歩。みな、思い思いに過していました。春のうらら、青空の下、ピンク色の桜を眺めながらのびのび。寝息をたてからだを伸ばして休んでいるメンバーさんを見て、デイ部屋の狭さを思うと、たまにはこういう広々とした場所で時間を過ごすのもいいなと感じました。アルコールはなかったけれど、メンバーさんの顔色も、桜の薄紅色に照らされているように見えました。

この日一番印象的だったのは、桜を見たIさんの表情でした。食後、数人で公園の中を散策したおり、Iさんが真っ白に咲き誇る桜の大木を指し「ほら、綺麗ね！」と声を響かせました。彼女の目がキラキラと・・・たとえて言うなら、少女マンガの登場人物のように、目の中にいくつもの星が輝いているようでした。「造形で作った桜の木みたい

ね」と彼女は続けます。みなさん、それぞれ桜を眺めて思い思いの感想を述べていました。恒例行事と言いつつ桜は毎年ちがった表情を私たちに見せてくれます。また、来年も楽しい花見を行いたいと思っています。

(鳥潟 恭子)

● デイケア潮干狩り(4月26日)

恒例の潮干狩りに今年も行って来ました！

当日の天気予報は大雨、直前までイベント開催が危ぶまれましたが、曇り空だったのも昼まで、現地に到着する頃にはピーカンの晴天となりました。潮干狩りを行う野島公園は平日昼間にも関わらず家族連れや遠足の小学生、ウエットスーツに専門漁具で身を固めた玄人肌の人達でびっしり。みなさん、仕事はどうしたのだろうと思いつつ私たちも昼食を終えと海に出ました。

例年とは違い、砂浜を鍬で引っかけるとアサリや白い大きな貝などがザクザクと取れます。利用者もスタッフも「これは何貝だ？」「どんどん採れるね」など会話を弾ませていました。生まれて初めて潮干狩りに参加したという方もすぐに慣れて皆と一緒に貝堀に熱中していました。最も注目を集めていたのは「マテ貝」採りです。これは、砂にもぐった貝の巣穴に食塩をかけ、呼吸困難になり獲物が地表に顔を出したところを捕獲するという珍しい漁法です。

終盤は皆で、食塩瓶を片手にマテ貝とりに奔走しました。

帰りの道では、いきなりの土砂降りに会いましたが参加者一同は車中にいたため快適にドライブ。「今年は、温泉旅行や花見などうまい具合に悪天候を避けてお出かけが出来るな」との声が出るなか無事寿町まで帰還することができました。今回採取した貝は明日の味噌汁の具として診療所全体で食べたいと思います。

参加されたみなさん、お疲れさまでした。来年も潮干狩りやりましょう！

(大平 正巳)



公園は花ざかり

診療所のデイ・ケアが始まってすぐ、やることのひとつとして、園芸があげられ、近くのY公園が全くの手つかずの状態になっていたのを目をつけました。少しずつ耕して、石を拾って、土壌改良剤など入れて広げてきました。もう8年目に入ります。

さまざま花木や、いちじく、くり、きんかん、ブルーベリーなどの実のなる木、季節の草花、その奥には多少の野菜も植えられています。水鉢には水草とメダカもいます。訪れる人たちが目を楽しませ、よろこんでくれています。週1~2回デイ・ケアのメンバーさんたちがゴミハサミ、ビニール袋をもって清掃もしています。これからは暑くなるので、水やりも大変です。

今、公園は花ざかりです。どうぞみなさん立ち寄ってみて下さい。

(田中 藤枝)



ボランティアさん紹介 - 山口のぶえさん -

横浜の桜が半開から満開に変わりそうな4月6日。やっと本格的に春らしくなって気温が高まり、関東では30度を超える地域もありました。そんな水曜日の午後、編集部の田中藤枝と松本一郎は、和服姿の山口のぶえさんからお話をうかがいました。もう3年近く、デイケアで月1回お茶の時間を開催されています。お茶花用の季節の花、カルキを抜いたお水を毎回持参してくださっています。

松本 寿町とは長く関わっていらっしゃるとのことですが、いつ頃からどのようなきっかけで関わるようになったのですか。

もともとは横浜育ちなのですけれども、以前大阪で暮らしておりました。「あいりん地区」のことは知っていましたが、初めは“近寄りがたい”という印象を持っていただけで、自分からは関心はありませんでした。でも、ある友人に、「そういうのっていけないことだし、知らないでいいという問題でないし、知るっていうことが大切よ」と言われて、ある日、牧師の金井先生が地域の人向けに開いていた食堂に連れて行かれました。それが初めての出会いなんですよ。この食堂は自然食で、玄米食、麦御飯、いわし料理、ひじき料理、お野菜を使ったメニューとかで、「いろんな病院とかあっても“食”の面での健康管理の場がない」という考え方でなさっていました。それから、ひと月に1回くらい食事を作りに行くようになりました。

その時の経験で、やっぱり私の考えを変えられちゃったみたい。そこに食へに来る人との関わりの中で、本当に“肌で”感じました。料理を作っている、声をかけて下さるし。私にとっては、“よちよち歩き”でびっくりすることだらけだったのですけれども。

そのあと住まいを関東に移すことになったので、「こういうところ無いのかなあ」って思いながらいました。子どもの頃は横浜の西区に住んでいて寿町は近かったのだけれども、育った家庭はそんなことに無関心だったので何にも知らなかったのね。それから、こちらに来て直ぐに、紹介されて地区センターの三森さんを訪ねました。しばらくして、ことぶき福祉作業所、木楽の家で会食のお手伝いをするようになりました。寿町との出会いは、地区センターがきっかけで、もうかれこれ、20年くらいになります。

松本 「あいりん地区」と比べて寿町の印象はどうでしたか。

向こうとは違って、寿町はきれいでした。石川町駅を降りて、歩いてきても独特のにおいが無かったです。

松本 寿町は、最初に来られた20年前から何か変わったことはありますか。

変わってますよね。最初来た頃にはなかったけど町に賭博場みたいなのが一杯できたりして。「こんな所にも出来たの」って思いながら。「えっ」と思うようなところにあります。それと最近外国人を見かけないようになりましたね。

松本 共同診療所での「お茶の時間」は、どのようなきっかけで始められるようになったのですか。

鎌倉にある精神障害者作業所「スペース ゆう」で、ボランティアを週2回くらいしていました。そこに津村さん(旧姓)がいらっやって、私が寿町と関わっていることを知っていたので、橋渡ししてくれたのです。

びっくりしたけど、すごく嬉しかった。「寿町でお茶ができるの？」というのもあったのですが、ワクワクした気持ちになっちゃって。そのお誘いがあった時は、とにかく嬉しさの方が先だった。共同診療所で始める時は、田中藤枝さんと確か「1回かも2回かもしれないけど、やってみましょうね。やってみないと分からないわね」という話しをしながら。

とはいっても、私だけがやるんじゃないで、デイの方たちが主役だから。一時期家族が入院してお茶を何回かお休みさせていただいたりすることがあって、それをきっかけに皆さんが自主的にやるようになったのね。私はそれがすごく良かったと思ったの。嬉しかった。

田中 だから結果的にお茶の時間は休みにならなかった。せっかくプログラムとしてもあるから、「自分たちでやろう」ってなって。

松本 お茶の時間について何か思ったらっしゃることはありますか。

なにしろ、私は「何をしよう」と家を出てくるのではなくって、皆さんとその場の空気からエネルギーをもらって帰れ

ることに生きがいを感じています。それとね、会話が楽しいのよね。何か分からないけれど、飾らないで言葉がポンと出るでしょ。だから、「具体的に何なの」って言われても言えないんだけど、何とも言えない肌^{てまへ}の感じ方とかがある。知らない間に目で見えてお手前も覚えてくださって、今日も二服^{にぶく}だけたてて、ちょっと私の膝が痛かったから、「やってくださる方いる？」って言ったら、「僕やります」って言ってくださって、全員の分をたててくださってね。もう1人お茶を配る人がいるのね。その方も初めて今日やってくださって。そういうのもギクシャクしてないの。だから、誰かが欠けた時に、誰かがパッと出てこれる、という空気が皆さんにはある。集まれば「じゃあ、やりましょうか」という感じだね。

田中 じゃばるわけでもなくて、変に固辞するわけでもなくてね。素直に「やってみようかな」ってね。

松本 じゃあ一つの時間を共有しているという感じですね。

もうその空気ですね。だから、すごい嬉しいですね。やっぱり最初何回かは、こちらから言葉をかけることが多かったですし、その繰り返しでもあったんですよ。言葉足らずのところもあったと思います。それがいつの間にか、皆さんの方から私に「今日はちょっと違いますよね、そこのやり方」と言ってくださるの。それに仲間が違うやり方をしていると指摘してくれたりして。ただ、あんまり言われても傷つく方もいるから、それなりに「それでもいいんじゃない」って声かけてみたりね。人によってはやり方がど

うかな、というものあるけど、違うやり方
だけれど、それも全くダメな問題じゃな
いわね、とかね。本当にそうなのよ。

松本 自由でいいということでもある
のですね。

あんまり、はめこもうとすると楽しくな
くなっちゃう。「お稽古場」じゃ楽しくな
いのよね。それが両者の“投げ合い”
になっている。馬が合う、合わないもあ
る。したくない時はしなくてもいい。それ
がここのデイの中にある。一緒にやっ
てくださる職員の方もそうですよね。

田中 最初はお菓子も「甘い、えっー」
って言っていたのよね。それがだんだん
お菓子が好きになってね。お茶も一緒、
今は美味しいと言うもんね。

美味しい理由は、いいお茶を買っ
ていただいているからなの。「お濃茶」
用の抹茶を使っているから美味しいの
よね。だから美味しいお茶に出会えたら、
いいなあと思う。

松本 最後に、「お茶の時間」は一言で
いうと、どういう時間ですか。

お茶を飲む憩いの時間です。わた
し、続けて来てみて、結果的に、エネ
ルギーをもらう時間です。それしかない
ですよ。やっぱりね、私自身のエネ
ルギーは自分から出て行ってから貰っ
てこないダメなのよね。自分で歩いて
いってもらってないと。私はそんな思
いで来させてもらっています。

寿町関係資料室から

1. 資料室の最近

昨年6月に500部を発行した『寿町ドヤ街』第1号「寿町の地域医療と福祉」ですが、思いのほか早く残部が無くなり、4月20日に初版第2刷として増刷しました。無料でお配りしておりますので、関心のある方はお問い合わせいただくか直接診療所を訪ねていただくと幸いです(郵送の場合は送料分実費をお願いします)。

弘前大学の山口恵子さんから資料室に『貧困と社会的排除』(ミネルヴァ書房, 2005年)を献本していただきました。資料室が研究者の方々からも少しずつ認知されているようでうれしい限りです。またこの間、資料室を訪ねてくださった人はテレビ番組のプロデューサーなどマスメディア関係の方、寿町を題材に修士論文・卒業論文・レポートに取り組んでいる院生・学生の方ですが、診療所のホームページをきっかけに訪れてくださる方が少しずつ増えているようです。

2. 『寄せ場文献精読306選』

資料室では、日本における「ドヤ街・寄せ場・野宿」といったテーマを中心に、文献や資料の存在を把握し、収集しています。中でも、寿町に関するものは、必ず収集するようにしています。

昨年5月、日本寄せ場学会が『寄せ場文献精読306選 - 近代日本の下層社会』(れんが書房新社)という483頁に渡る本を出版しました。第1冊目のドストエフスキ『罪と罰』から第306冊目の『ASAKUSA STYLE』までの基本文献が精力的に網羅され、関連紹介文献を合わせると1,000点に及びます。1890年から現在まで5つの時期区分を行い、その時代に沿った文献

紹介が行われていて、ところどころ時代背景や寄せ場の特徴などの解説、年表が挿入されています。類書のない画期的な1冊です。

その中で寿町に関して紹介されている文献を挙げると、芹沢勇『ドヤ街の発生と形成』(1967年)、日本社会事業大学『寿町に於ける労働者の問題』(1968年)、芹沢勇編『福祉紀要 特集・寿ドヤ街』(1976年)、渡部幸子『寿町保健婦日記』(1977年)、佐伯輝子『女赤ひげドヤ街に純情す』(1982年)、寿識字学校『ちからにする』(1982年~)、中田志郎『はだかのデラシネ』(1983年)、佐江衆一『横浜ストリートライフ』(1983年)、川瀬誠治君追悼文集編集委員会『ことぶきに生きて』(1985年)、川原衛門『ドキュメント 寿町・風の痕跡』(1987年)、益巖『いのちといのちの出会い』(1988年)、カラバオの会『仲間じゃないか、外国人労働者』(1990年)、大阪府立大学社会福祉学部庄谷ゼミ『寿町労働者の老後生活と福祉』(1991年)、村田由夫『良くしようとするのはやめたほうがよい』(1992年)、花村萬月『ブルース』(1992年)、レイ・ベントウーラ『ぼくはいつも隠れていた』(1993年)、庄谷怜子『現代の貧困の諸相と公的扶助』(1996年)の17冊であった。若手研究者の山本薫子さん、北川由紀彦さんたちが精力的に取り上げています。

また以上の「精読文献」に関連して次の文献も紹介されている。横浜市民生局『横浜市における日雇い労働者の生活実態調査報告』(1950年から各年度)、横浜市スラム対策研究会『スラム関係資料集』(1968年)『不良環境地帯における居住関係について』(同)、寿共同保育『寿共同保育』(1982年)、野本三吉『風の自叙伝』(1982年)、大沢敏郎「補論 横浜・寿識字学校

からの報告」(パウロ・フレイレ『自由のための文化行動』1984年)、佐伯輝子『ドクトルてるこの聴診器』(1985年)、カラバオの会『外国人出稼ぎ労働者 新聞切り抜き帳』(1987年～1997年)、石山永一郎『フィリピン出稼ぎ労働者』(1989年)、ことぶき共同診療所『ことぶき共同診療所5周年誌』(2002年)、大沢敏郎『生きなおす、ことば』(2003年)、ことぶき共同診療所、寿医療班の定期ニュースレターなど。

なお、これらの文献はほとんど全て資料室で閲覧・貸し出し・コピーすることができます(コピーは原則有料。一部貸し出し制限あり)。その他、寿町関係に限定しても記載されていない文献、論文、通信、資料はまだあります。関心のある方は松本あてでお問い合わせください。

3. 2004年の寿町関係新刊書

管見によれば寿町関係の一般書(書店流通)は、2004年中に出版されたものだけでも4冊になります。そのうち、3冊の書籍を紹介します。

まず須藤八千代『ソーシャルワークの作業場 - 寿という街 -』(誠信書房)。かつて中福祉事務所でケースワーカーをされていた方の、「ソーシャルワークの最前線」としての寿町での関わりが描かれています。「買取りパン券」「住宅扶助特別基準の弾力的運用」などの工夫、区役所を中心とする関係者の取り組み内容も映し出されている(ちなみに、58-59頁には資料室発行の『ことぶき簡易宿泊所街地図集』51頁が引用されているのですが、発行者名が「ことぶき共同診療所関係資料室」、発行日は「2003年7月3日」と誤って記されており、下線部は正しくは「診療所寿町関係資料室」、「31日」です)。

小さめの写真を使い、2003年の昼間の寿町の、何気ない日常の風景が流れている綿谷修『昼顔』(蒼穹舎)。寿町に関わる私たちが何となく知っている風景が収めら

れている気がする。寿町関係の写真集は数えるほどしか出版されていないですが、大塚洋介『羅漢たち』(「羅漢



寿はずっと建設ラッシュ。写真は診療所の裏手に建設中の簡易宿泊所(5月24日)

委員会,1983年)、鷲尾倫夫『写真』(ワイズ出版,2000年)以来だと思います。

こちらは寿町を題材にした435頁に渡る小説ですが、花村萬月『ブルース』よりかなり寿町を取材され、また関わりもあると思われる。山崎洋子『ヴィーナズゴールド』(毎日新聞社)であるが、冒頭の、野宿状態に陥った女性「灯子」が寿町までに辿り着く描写の切迫度が強く印象に残った。フィクションとはいえ全体に渡り戦後の闇、ヨコハマの闇がかぶさっている。

なお、以上の3冊は資料室で閲覧・貸し出しができます。

4. 資料室の今後

さて今後についてですが、『寿町ドヤ街』第2号は、6月の発行を目指しています。また、『ことぶき生活便利マップ』の最新版を作る予定です。前回発行が2003年12月でしたが、日々活用されている方から「新しい宿泊所の建設が多く町並みが変わっているので情報を更新して」と要望があり、また在庫も底が見えてきました。12月発行予定を少し早めて発行したいと思います。

(松本 一郎)

関係機関の方から関

当所の患者さんも多く通所している「ろばの家」の職員の方です。何かと患者さんのことで連絡を取り合っています。ちなみに当所の鈴木伸医師はろばの家の嘱託医です。関係機関の方ということで原稿を寄せていただきました。

音楽と音我苦

地域作業所「ろばの家」 職員 西館 直樹

この街(寿町)との出会いは、社会人1年目のことだった。学校卒業後、ある入所施設へ勤務することになった私はこの街の存在を知る。夕方、入所者が一人いない。「寿に行って飲んでるかもな」と職員の間で話をしている。警察へ保護願いを出し職員は帰っていった。私は、地図を片手に街へと足を運んだ。

なんて街なんだ!!歩いているのが正直、怖いと感じた。何だかの事情があってこの街でしか住めない方々の地なんだろうなと認識することは出来たがどういう街なのか分からなかった。月日は流れ段々街の様子や事情が分かってきた。最初に勤務した施設を3年勤務した後人事異動にて通所介護の仕事をして街の近くですることになった。正直、恐れていた。目

の前に街がある。職場からは、街を通っての通勤はすると言われていた。案の定、利用したい人たちが訪ねて来た。利用に結び付けてもなかなか長続きしないのが現状だ。山の上には山手町がそびえている。異文化と言っても良いかもしれない。街と街が交われないのである。それでもニーズはあり、公用車で迎えに行く日は週に何日かはあった。走りづらい。危ない。やはり怖い。あつと言う間に6年半の歳月が過ぎていった。この歳月に気付かされた。ここには数多くのニーズがある。恐れているだけでは始まらない。しかも味がある。長年勤めた職場を辞め、私は再就職の場をこの街に設定した。今まで自分が身に付けてきたことをぶつけたかった。

私の頭の中は絶えず五線紙の上を音符が流れている。

この街に一步踏み入れると様々な音が流れている。美しい音色(?)いや不協和音と言ったほうが妥当であろうか。強弱も様々でテンポも合わない。音我苦であ

る。

しかし誰が指揮する訳でもないのに限りなく流れてゆく。しかもよく聞くと、どことなく心地よい音に聞こえてくる。幻聴?幻

覚？妄想？いやはっきりした事実である。音楽である。クラシカルな音でなく、現代音楽に近い音をこの街は醸し出している。

音我苦を感じたままこの街を出ると音楽に出会える。ホッとする瞬間である。外の街の音楽が音我苦であれば、この街の音楽は音楽である。これもホッとする瞬間である。これがこの街と外の街とのギャップを生んでいると私は感じる。何処でもそうだが街の音楽を楽しむには、街と協調していくことが必要である。勿論どちらにも音楽、音我苦と感じている方もいるだろう。

しかし異種独特と感じざるを得ないこの現状。それを偏見と言う方も多いと思う。だがかつてこの街は、港湾事業が盛んだった頃大フロンティアであった。ここで過ごした方々が高齢にな

り、又、この街にたどり着いた方々が病をもっており、ケアの必要な方々が住む街へ変貌してきた。ケアをそれほど必要としない方々が孤独死を迎える。複数のケアがある方々が過ごしている。街の人々は流動的だが街自身歳をとった。

この街は隣組の要素をもった街になっている。街の人々同士の助け合い、診療所、福祉プラザ、はまかぜ、デイサービスセンター、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、地区センター、作業所、そして区職員の定期的な訪問。なくてはならない存在ばかりである。何故なら音楽と音我苦があるからである。



しかし、これだけ整った和音がこの街には存在する。しかも250m四方のこの街に。

今日も私の頭の中は絶えず五線紙の上を音符が流れている。

この音をちょっと立ち止まって聴いてみると…素敵なハーモニーが奏でられて

いるはずです。

この和音、あなたにとって音楽ですか？ 音我苦ですか？

“診療室から” (15)

最近思うこと



週一回共同診療所で働くようになり、2年が過ぎました。労働日数が少ないのでおおざっぱになりますが、この間にも受診に来る患者さんが着々と多くなり、特に服薬管理と抗酒剤 DOTS の患者さんが増えました。人数は20人から50人ぐらいでしょうか。(おおざっぱですみません)

DOTS をはじめる患者さんは薬を確実に服用できない人(服用忘れ、服用しすぎ、服用する動機がうすいなど)とアルコール依存症の治療の一つとして抗酒剤を毎日のむ場合があります。ときどき患者さんより、「毎日抗酒剤をのみに来てハンコを押してもらわないと役所の担当さんにおこられる」という話を聞きます。お酒を飲みたい気持ちが強い人にとって抗酒剤をのむということはどういう心理状態になっているのか考えてみると、患者さんから葛藤のオーラが出ているように感じます。

お酒のせいで体が悪くなり、亡くなってしまう人がいます。お酒さえ飲まなければいい人なのにといい人もいます。自分はお酒が好きなほうで酒のプラス要因を認めたいのですが、診療所では患者さんに抗酒剤をすすめています。抗酒剤をのみたくない気持ちが強い人にすすめる場合はプレッシャーがあり、葛藤があります。

DOTS のために毎日診療所に来ることが治療の動機の助けになり、お酒を飲まない、また飲んだとしてもブレイキになるのではないかと期待しています。へべれけでよろよろの患者さんが数日後しゃきっとしているのを見ると、少しほっとします。

DOTS の卒業のためには、服薬が自己管理できるようになるか、ヘルパーさんや訪問看護の助けをかりるか、またアルコールミーティングへの参加や仕事が見つかることなどにも関連してきます。そもそもなぜアルコール依存症になるのか？自分は「すべての人に仕事をくれ」と思いつつ、お酒を飲み過ぎないように気をつけようと思いました。

(森 英夫)

最近のことぶき共同診療所の利用のされ方について

2005年3月現在の当診療所通院患者数は732人となっており、相変わらず増え続けています。1日の最高受診者数は190人です。一応半日のはずの土曜日でも、100人を超える日ができるようになりました。患者さん達は、毎朝6時頃から並び始め、9時にドアを開ける時には40～50人の人達が既に並んでいることが多く、それらの人達がドッと待合室に入ってきて、受付名簿に順番に名前を書いています。コンビニ弁当などの朝御飯を持参してきている人達もあり、ドアの前の廊下にぺたっと座り込んで、御飯を食べながら“開門”を待つのだそうです。何やら横浜球場で人気カードが行われる時のチケット購入のための場所とりのようです。

科別に見た患者さんの内訳は下のようになります。

科 別	人数
1. 精神科のみ(不眠症を含む)	279
2. 内科のみ	58
3. 整形外科のみ	19
4. 精神科 + 内科	213
5. 精神科 + 整形外科	40
6. 整形外科 + 内科	17
7. 精神科 + 内科 + 整形外科	66

この分類は大変おおまかなものだし、例えば便秘症とか上気道炎とかをいちいち内科疾患として数えているわけでもないし、湿布を出せば整形外科というわけではありません。又、皮膚科や眼科や泌尿器科の薬が出ている患者さんも多いのですが、数えてはいません。ことぶき共同

診療所らしい特色と言え、複数科の疾患をもつ患者さんが多いことだと思います。

一例をあげれば、アルコール依存症であり、肝硬変があり、それに高血圧や糖尿病があったり、なかったりして、腰痛(変形性脊椎症など)がある、というような患者さん達です。結局こういった患者さんが、1ヶ所の医療機関の通院で大体足りてしまうという所に、朝6時から行列が出来てしまう原因があると思うのです。他にもっと同じような医療機関があればよいのに、と思います。

精神科の患者さんの内訳を見ると、次のようになります。

科 別	人数
1. アルコール依存症	237
2. 統合失調症	98
3. 薬物精神病	84
4. 躁うつ病	80
5. 神経症	55
6. 痴呆	29
7. てんかん	17
8. 知的障害	11
9. その他の精神疾患	9
10. 不眠症	69

これを約5年前の平成12年7月で見ると以下のようなものでした。

科 別	人数
1. アルコール依存症	80
2. 薬物中毒後遺症	30
3. 精神分裂病	38
4. 神経症	42
5. 躁うつ病	20
6. 精神遅滞・痴呆	6
7. その他の精神障害	10

神経症をのぞいていずれの疾患も大幅に増加しています。アルコールや薬物(ほとんど覚醒剤)の患者さんの驚異的な増加にも、あらためてびっくりしますが、内因性精神病と言われる統合失調症、躁うつ病の大増加、予想されていたとはいえ、痴呆の増加率の大きさに驚きます。ことぶきという街が、急速に介護サービス、訪問看護を大量に必要とする街に変わってきているのがよく分かる数だと思いません。

精神科以外の疾患で、上気道炎(感冒)や便秘症、胃腸障害、花粉症と言ったよくみられるものを除いた上で、数の多いのは次のようなものでした。

科 別	人数
1. 高血圧	147
2. 肝機能障害	72
3. 白癬	68
4. 糖尿病	50
5. 前立腺肥大	42

私は、ことぶき町では高血圧の患者さんは、一般地域に比べて少ないんじゃないか、と思ってきたのですが、なかなかどうして、増えてきたかなという感じです。加齢とも関係するんでしょうか。なお、上記の数は降圧剤を服用している人の数であり、上が140、下が90という基準を厳密に適用すれば、その数はもっとずっと多くなります。

肝機能障害もことぶきに大変多い疾患ですが、その原因は大きく2つに分かれます。1つはアルコールであり、もう1つはC型肝炎ウイルスによるものです。勿論、この両者がからんでくる人もいます。肝硬変にまでいってしまっている人もいますが、大部分は慢性肝炎の段階です。アルコール性の方は、断酒によって回復してく

る人が多いです。肝硬変のために血中アンモニア値が上昇してボーッとしている人(肝性脳症)には時々出会うのですが、何故か昔よくあった腹水でお腹がパンパンと言うひとには出会わなくなりました。

白癬というのは、水虫のことです。ていねいに探せばもっと多数の人がかかっているのですが、この数は薬を出している人の数です。爪白癬と言って、足の爪が白く肥厚し、ボロボロと崩れ出しているような人がたくさんいます。看護婦さんにその爪を切ってもらうのを楽しみにしているような人達もいます。水虫は見れば一目瞭然たるもので、別に皮膚科を受診する程のことはないし、薬をつけていれば確実によくなるので、これからも発見につとめたいと考えています。

糖尿病の患者さんも結局増えてきてしまいました。多分以前は、当所に来ていた人でも、糖尿病の治療は内科の病院でと考えていた人が、うちでもよいと考えるようになったのか、結果的にそうなってしまったか(インシュリンの継続使用の患者さんも出てきています)でしょう。又、アルコール依存症と重複している患者さんもけっこういるので、アルコールの患者さんの増加に伴っている面もあると思います。

最後に前立腺肥大ですが、これはもう高齢の男性患者さんが多いから、ということにつきると思います。皆さんに(多分読者に高齢男性は少ないと思うから)知っておいてもらいたいと思うのは、頻尿って結構大変(ドヤ居住の場合特にそうです)だということと、服薬で改善する確率が高いということです。おしっこがちょっとずつしか出なくて、回数が多い、という訴えがあった場合、とりあえず薬をのんでもらってしまって、次回来た時に効果の

程を聞くことにしています。当所にもエコーというマシーンが導入されたので、検査も出来るのですが、薬を飲んでもらってしまった方が早い(治療的診断と云う)という実感です。

2005年3月の新患(全くの新患と通院が途絶えていたが又通院するようになった人を含む)は63人の多数に上りました。当診療所でのこれ迄の最高だと思えます。1日平均3人の新患さんが来たこととなります。

その疾病別内訳は次のようなものでした(重複集計)

精神科	
科 別	人数
1. アルコール依存症	31
2. 統合失調症	6
3. 薬物精神病	5
4. 痴呆ないし痴呆の疑い	3
5. 神経症	3
6. うつ病	2
7. てんかん	2
8. その他の精神疾患	2
9. 不眠症	6

その他	
科 別	人数
1. 肝機能障害	12
2. 高血圧	7
3. 糖尿病	5
4. 急性上気道炎	5
5. 腸閉塞	1
6. 肺結核	1
7. 変形性脊椎症	1
8. 脳梗塞後遺症	1

精神科、内科とも上位のビッグスリーは、現在の総患者数におけるものと変わりありませんでした。従って傾向としては同じような流れが続いているのだと思えます。しかし、アルコールの新しい患者さんが1ヶ月に31人も来るとするのは、いかにも多いという気がします。勿論、過去最高だと思えます。現在当所で抗酒剤のDOTSをしている患者さんがかなりの数に上ってきていることとも関係があるのでしょうか。当所でのDOTSはもう限度に近い所迄来ていると思うのですが。

急性上気道炎(いわゆる風邪)で、当所の新患として来て下さる患者さんも結構いて、そんな時わりと嬉しい気がします。よその病院に通っている人でも“カゼひいちゃったよ”と来てくれると、“ああ、私は町医者やってるんだ”と思えるからです。腸閉塞というのはちょっとオーバーで、カルテには偽性腸閉塞と書きますが、要するに5日も7日も便が出なくて、お腹がはって“何とかしてくれ”と駆け込んで来る人で、従来から時々あります。浣腸か点滴をする人が多いです。脳梗塞後遺症の方は、数は数えていませんが、ことぶきにはかなりの数の人がいます。実は私もその1人です。要するに高齢化しているということですよね。

長くなりましたが、最近の診療所の状況をまとめてみました。

(田中 俊夫)

職員自己紹介

いしい
石井 ひとみ

昨年9月からアルバイトで、今年3月からは常勤の職員として診療所の仲間に入れていただいた石井です。医療に関わる仕事も寿町の中で働くことも未経験の私にとって診療所での仕事は、一言で言うと毎日びっくり箱を開けているような...そんな感じです。最近では受付や診療所近辺を歩いている時などに患者さんの方から声をかけられることも増え、少しは顔を覚えてもらえてきたのか

な一とうれしく思っています。私が直接患者さんにできることは何もないでしょうが、先生や看護師さん、スタッフが気持ちよく働けるお手伝いができたらいいなと考えています。何かと至らない私ですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

(旧姓酒本。結婚され5月から石井さんに改姓されました。)

ひのうら
日野浦 リサ

皆さん、はじめまして！知らない方が多いと思いますので、まずは、私の自己紹介から始めます。昨年の11月からデイケアでバイトをさせていただいている日野浦リサと言います。現在、明治学院大学に通い、社会福祉を学んでいます。寿町へは、紹介でバイトをさせていただ

くことになりました。実はもう一つバイト候補先があり、今考えれば、そちらは家からも近く、私のやりたいことにはむしろ近かったのかもしれないのに、なぜか私は無性に行ったことのない寿に魅かれしまったのです。そして、初めて、寿町を訪れたとき、ことぶき共同診療所の光景

と案内してもらった町並みと人々の衝撃に完全にノックアウトされ、虜になってしまいました。今では自分を動かす原動力にもなっているように感じられます。寿を知れたこと、寿に関われたこと、様々な人と出会ったこと、考え、葛藤すること、私には毎回全てが新鮮で、驚きの連続です。しかし、このような経験をできることは本当に幸運であると実感しています。人との出会いとは不思議なもので、社会福祉の学科を第一希望としていなかった私が、今では、同じ学科の仲間が

他の方面へ進んでいく姿を横目にしながら、社会福祉の道に進もうとしています。そういう事もあり、私は人との出会いを大切にしています。そして何よりも素敵なのは相手を知ることにより自分を知ることができることです。これから、もし見かけることがあれば気軽に声をかけてくれれば幸いです。至らない点はもちろん、気になることがあったら言っていただけるとこれ幸いです。明るさとプラス思考(何も考えてないだけという噂も・・・)だけが取り柄ですが、よろしくお願いします。

ことぶき共同診療所ホームページの紹介

昨年に独自ドメインを取得し、診療所のホームページ(<http://kyoudouclinic.com/>)を開設しています。開設以降、ホームページを見た方から、診療所の見学、ボランティア参加、寿町関係資料室への訪問などの希望が随時あるようになりました。医療スタッフ、ボランティアの募集もこのページで情報を掲載しています。掲示板もありますので、情報交流・交換の場としてご利用ください。

アクセスは、<http://kyoudouclinic.com/>、メールは info@kyoudouclinic.com まで。



医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**
整形外科 鍼灸

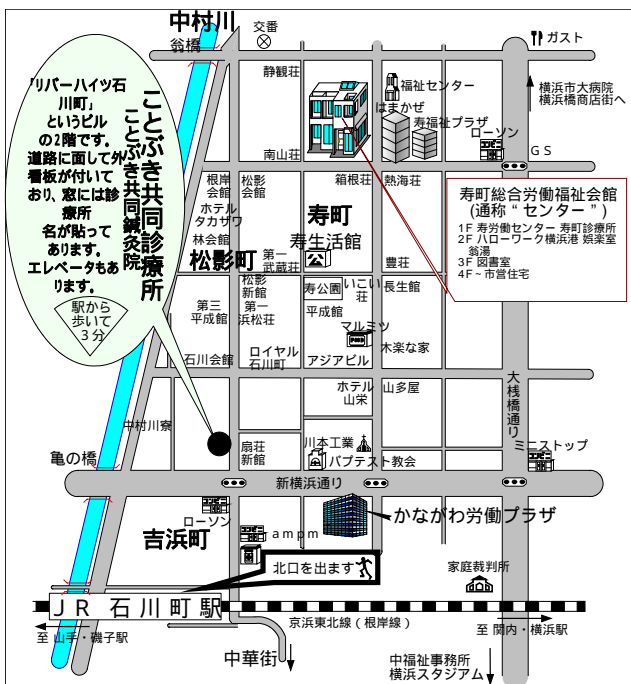
診療所

	9時30分	12時	14時	18時
月	休診			
火	田中・鈴木	昼休み	田中・鈴木	精神科・神経科・内科
水	越智		越智	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木		田中・鈴木	精神科・神経科・内科
金	鈴木		田中	精神科・神経科・内科
土	整形外科・精神科・神経科・内科			

第1・2・4・5週 三橋・鈴木
第3週 大脇・鈴木

鍼灸院

	10時	12時	14時	18時
火	新井(矢島)	昼休み	新井(矢島)	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	



保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護法 精神保健福祉法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

なお、鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください。

寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 2F
でんわとファックス
(045) 651-2305

e-mail info@kyoudouclinic.com

ホームページ

<http://www.kyoudouclinic.com/>

2005年5月27日現在